ＪＡ自己改革推進レポート（ＪＡ鳥取西部）１１月号

１．　小学生が地元の特産品を学ぶ　食育授業

　ＪＡ鳥取西部は９月７日、大山小学校で地元特産の「大山ブロッコリー」を学ぶ総合学習の授業に協力し、食育授業を行った。

　ＪＡ大山営農センターの職員が講師を務め、児童に大山ブロッコリーの流通や栽培保存方法などや、クイズを交えながら同町が全国有数の産地であることなどを教え、児童らは楽しみながら大山ブロッコリーへの理解を深めた。

２．　３年ぶりのフェスタ開催に笑顔あふれる　新型コロナ対策を徹底

　鳥取県西部の農と食の魅力をＰＲする県内最大級のイベント「第７回農と食のフェスタｉｎせいぶ」が１０月２２日と２３日の両日、米子市の米子コンベンションセンターで３年ぶりに開かれ、２日間で約１万人が来場した。

　今年は新型コロナ対策で規模を縮小し、４７店舗が出店。会場内に飲食スペースを設けず、来場者やスタッフらのマスク着用や手指の消毒、ソーシャルディスタンスの厳守などを徹底した。

　フェスタ会場内では、米や野菜などの特産物や地元産食材を使った美味しい料理やスイーツなどをテイクアウト限定で販売。地元の人気芸人「ほのまる」の食育をテーマにしたトークイベントや、子ども向けの地元農産物に関するクイズラリー、各日先着１０００人の新米おにぎり配布などを行い、会場は来場者や関係者らの笑顔であふれていた。

３．　２０２２年産秋冬ブロッコリー出荷数量４４万箱、販売金額９億６８００万円目指す

ＪＡ鳥取西部は１０月１１日、ＪＡ本所で２０２２年産秋冬ブロッコリー販売対策会議を行った。県内外の市場７社とリモートで２２年産初夏どりブロッコリーの販売実績や産地状況、市場情勢などを報告。２２年産秋冬の生産出荷計画や販売対策などを話し合い、市場が求める品質や出荷形態などについて意見を求めた。

生産者やＪＡからは、世界情勢の悪化に伴う生産資材の高騰など厳しい生産現場の状況や、消費者の理解を得ながら再生産可能な適正価格での販売に努めてほしいなどの要望を伝えた。

以上